

アートフロア

温水式床暖房仕上げ材用 施工説明書

必ずお読みください

施工される方へ

施工前に製品をよくお確かめください。

品質管理には万全を期していますが、万一品質に不都合な点がございましたら、販売店様または弊社営業まですぐにご連絡ください。施工前の製品に限り、販売店様を通じて代替品と交換させていただきます。施工後の交換、補修は致しかねますので必ず施工前にご確認をお願いします。

⚠️ ご注意

ご使用になる前に必ずこの「施工説明書」をご一読いただきますよう、お願いいたします。間違った施工を行いますと製品の品質劣化や損傷につながる可能性があります。本書に従わず施工を行った場合については、当社での保証はしかねますのでご注意ください。

NANKO 南海プライウッド株式会社

本社：〒760-0067 香川県高松市松福町1丁目15番10号

北海道・東北営業グループ TEL(087)825-3632 FAX(087)825-3695
関東営業グループ TEL(087)825-3621 FAX(087)825-3645
中部営業グループ TEL(087)825-3622 FAX(087)825-3646
近畿営業グループ TEL(087)825-3623 FAX(087)825-3647
中国営業グループ TEL(087)825-3624 FAX(087)825-3648
九州営業グループ TEL(087)825-3625 FAX(087)825-3649
特需営業グループ TEL(087)825-3662 FAX(087)825-3669
テクノ営業グループ TEL(087)825-3657 FAX(087)825-3659

施工上のご注意



屋外使用禁止

本製品は内装専用です。屋外には使用できません。



粘着テープ使用禁止

フロア表面に粘着テープ(セロテープ・シール等)を使用しないでください。養生時には「木質床材専用養生テープ」をご使用ください。



土足厳禁

本製品は土足では使用できません。店舗等土足で上がる場所には使用しないでください。



水・温気禁止

屋内であっても直接水のかかる場所や湿度の高い場所には使用しないでください。



重量物注意

重量物を置く場合は、根太間隔を狭くするなど、十分な補強を行ってください。



反り・ねじれ厳禁

床下地にたわみがあると床鳴りの原因となります。ご注意ください。根太・下地合板等に使用する木材は乾燥材で通直な物を選んでください。また、フロアに接する部分は平滑に調整してください。



火気厳禁

本製品は木質製品です。火気には充分お気を付けてください。



接着剤注意

フロア表面に付いた接着剤は直ちに拭き取ってください。時間がたつて硬化すると取れなくなります。

温水式床暖房の仕上げ材として「アートフロア」を施工する場合はこの施工説明書に従って施工を行ってください。

12mm仕上げ材対応 【アートフロア…12mm厚】

東京ガス	小根太入り温水マット	…	①
大坂ガス	小根太付温水マット	…	①
東邦ガス	小根太入り温水マット	…	①
	木質温水パネル12mm	…	②

6mm仕上げ材対応 【アートフロア…6mm厚】

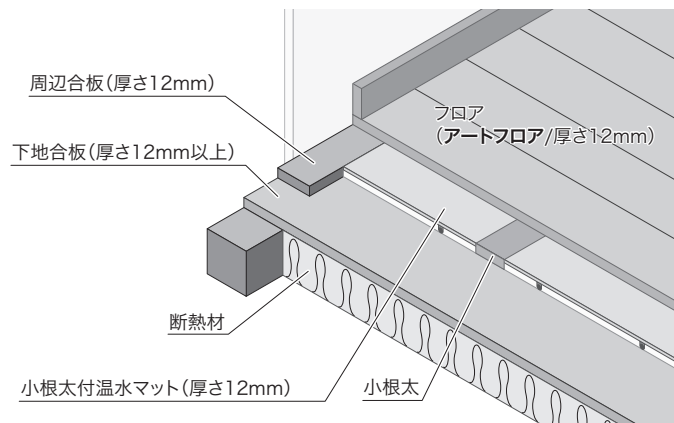
東京ガス	小根太入り温水マット9mm	…	③
東邦ガス	木質温水パネル12mm	…	②
	小根太入り温水マット		

(6mm仕上げは、小根太入り温水マット(12mm)への直接施工には対応していません。必ず、9mm合板(JASタイプ1・F☆☆☆☆タイプ)の捨て張りをしてください。その後の施工方法は①をご参照ください。)

その他各種温水式床暖房に対応

①小根太付温水マットの場合

【アートフロア/12mm】



アートフロア 12mm製品 ●アートフロア リプル

⚠️ 施工上の注意等

- 清掃をきちんとしてください。不具合の原因になるおそれがありますので、小根太付温水マットの表面を雑巾で拭いてください。
- 小根太付温水マットの施工要領書に基づく施工が正確に出来ているか、床暖房システムが正常に作動するか確認してください。
- 床暖房を敷設する際は、あらかじめどの方向にフロアを設置するか確認の上、小根太付温水マットの敷設する向きを決めてください。
- 室温5℃以上で作業をしてください。現場の環境が床材施工に不適な場合は作業を行わないでください。

⚠️ 施工後の注意等

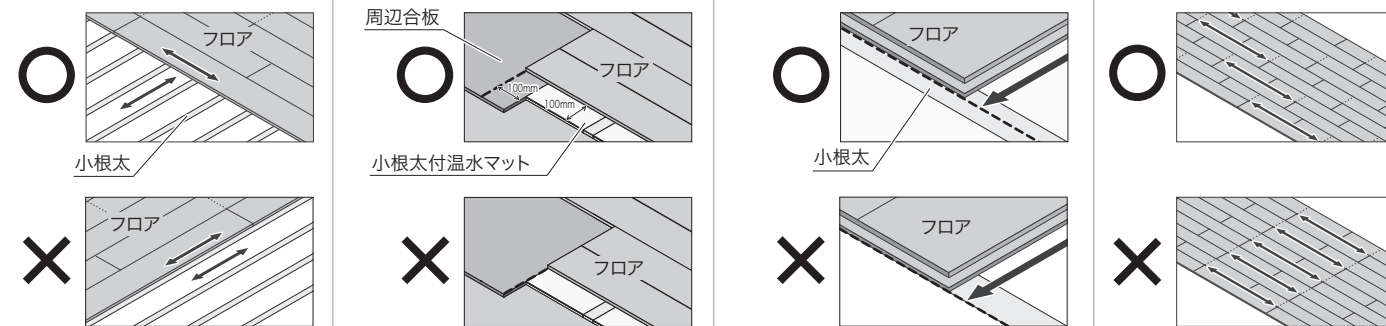
- 掃除機などでゴミ、ホコリを充分に取り除いてください。
- 特に汚れがひどい場合は堅く絞った雑巾で拭き取ってください。
- 本製品は表面に十分な耐久性・意匠性をもせたノンワックスタイプです。ワックスの使用はお控えください。もし何らかの理由でワックスかけを行う場合は同梱の「取扱説明書」をお読みください。
- 特に水濡れしやすい場所に施工する場合、必ず目地コーキングを行ってください。目地コーキングを行わないと水の滲入により床鳴り、突き上げ、スキ、シワなどの原因となります。

1 下地の調整

- 下地材の強度が充分か、床鳴りがないか確認してください。
- 小根太付温水マットの施工はメーカーの説明書及びマニュアルに従って施工を行ってください。
- 周辺合板が濡れていないことを確認してください。含水率は13%以下としてください。(調べる場合は、電気抵抗式木材水分計で測定してください。)
- 小根太付温水マットと周辺合板(12mm、JASタイプ1・F☆☆☆☆タイプ)とは段差のないよう仕上げてください。

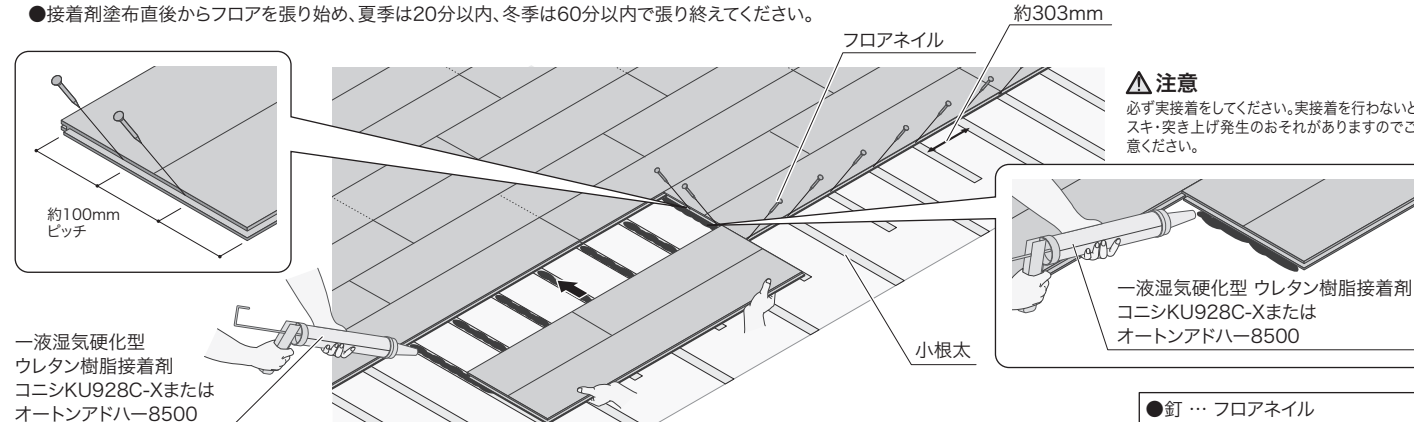
2 割り付け

- フロアは必ず小根太付温水マットの小根太と直交になるよう割り付けてください。
- 小根太付温水マットと周辺合板の継ぎ目が、フロアの継ぎ目と100mm以上離れるように割り付けてください。
- 小根太のセンターに必ず短辺実部がくるように割り付けてください。
- フロアは606mm、909mmずらし張り(柄によって異なる)のいずれかで割り付けてください。



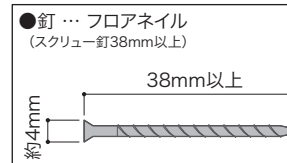
3 施工

- 小根太部分と小根太延長部分に、一液湿気硬化型ウレタン樹脂接着剤(コニシKU928C-X・オートンドハー8500)を塗布してください。
- フロアを配置し、長辺オス実部に約303mm(300mm以下)間隔、短辺オス実部に約100mm間隔で小根太部分に釘(フロアネイル/スクリュー釘38mm以上)を打ってください。(打ち込み角度50~60°)
- 2枚目以降は、配置がすんだフロアの短辺オス実部下に必ず一液湿気硬化型ウレタン樹脂接着剤(コニシKU928C-X・オートンドハー8500)を塗布してから、新しいフロアを配置してください。
- 接着剤塗布直後からフロアを張り始め、夏季は20分以内、冬季は60分以内で張り終えてください。



⚠️ 注意
必ず実接着をしてください。実接着を行わないと目スキ・突き上げ発生のおそれがありますのでご注意ください。

- 釘打ち可能部分(小根太)以外には絶対に釘を打たないでください。
- 小根太付温水マット上のフロア施工にフロアステーブルは使用しないでください。樹脂パイプを貫通してしまった場合、釘打ち検知器による検知ができない可能性があります。
- フロアの裏面及び小根太付温水マット全面には接着剤を塗布しないでください。
- 接着剤がフロアの表面に付着した場合は速やかに乾いた布で拭き取ってください。硬化すると取れなくなります。



4 養生

- 施工後は、床をきれいに清掃し、養生シートを養生テープで固定してください。養生シートの上から更に2.3mm以上の合板もしくはMDF等で固定することをお勧めします。
- 養生の際は必ず「木質床材用養生テープ」をご使用ください。(推奨品：(株)寺岡製作所 P-カットテープ 415白)

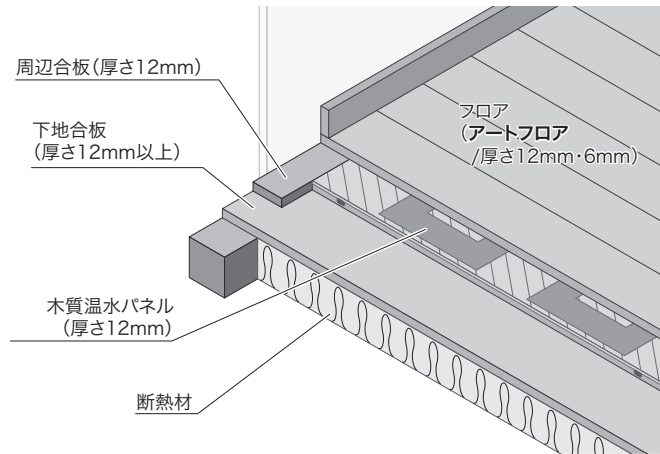
5 運転

- 接着剤が完全硬化し、接着強度がでるまで5日以上(室温20℃の場合)必要です。ただし、軽歩行は24時間(室温20℃の場合)あれば可能です。また放熱板への通湯は、48時間経過してから行ってください。

仕上げ材厚み別 タイプ例

②木質温水パネル(12mm)の場合

【アートフロア/12mm・6mm】



アートフロア 12mm製品	●アートフロア リブル
アートフロア 6mm製品	●アートフロアLIP6 オリジナル

⚠ 施工上の注意等

- 清掃をきちんとしてください。不具合の原因になるおそれがありますので、木質温水パネルの表面を雑巾で拭いてください。
- 木質温水パネルの施工要領書に基づく施工が正確に出来ているか、床暖房システムが正常に動作するかを確認してください。
- 床暖房を敷設する際は、あらかじめどの方向にフロアを設置するか確認の上、木質温水パネルの敷設する向きを決めてください。
- 室温5℃以上で作業をしてください。現場の環境が床材施工に不適な場合は作業を行わないでください。

⚠ 施工後の注意等

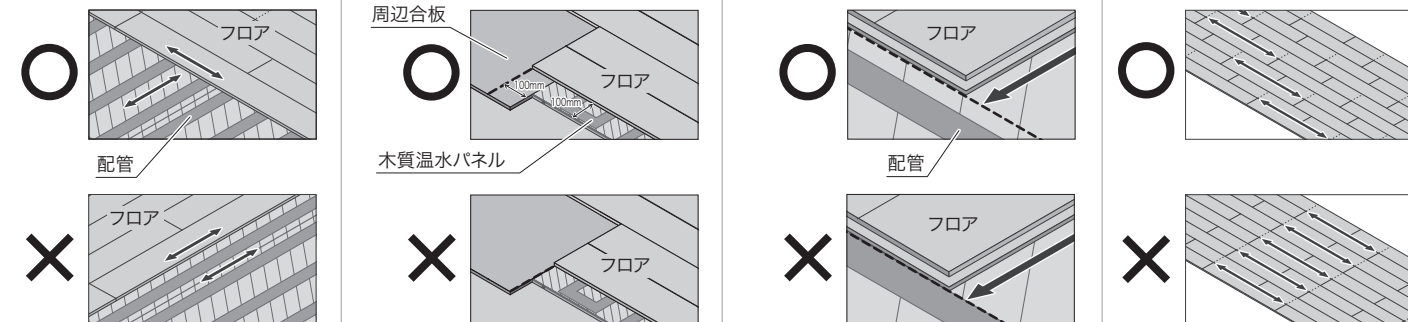
- 掃除機などでゴミ、ホコリを充分に取り除いてください。
- 特に汚れがひどい場合は堅く絞った雑巾で拭き取ってください。
- 本製品は表面に十分な耐久性・意匠性をもたせたノンワックスタイプです。ワックスの使用はお控えください。もし何らかの理由でワックスがけを行う場合は同梱の「取扱説明書」をお読みください。
- 特に水濡れしやすい場所に施工する場合、必ず目地コーキングを行ってください。目地コーキングを行わないと水の滲入により床鳴り、突き上げ、スキ、シワなどの原因となります。

1 下地の調整

- 下地材の強度が充分か、床鳴りがないか確認してください。
- 木質温水パネルの施工はメーカーの説明書及びマニュアルに従って施工を行ってください。
- 周辺合板が濡れていないことを確認してください。含水率は13%以下としてください。(調べる場合は、電気抵抗式木材水分計で測定してください。)
- 木質温水パネルと周辺合板(12mm、JASタイプI・F☆☆☆☆タイプ)とは段差のないよう仕上げてください。

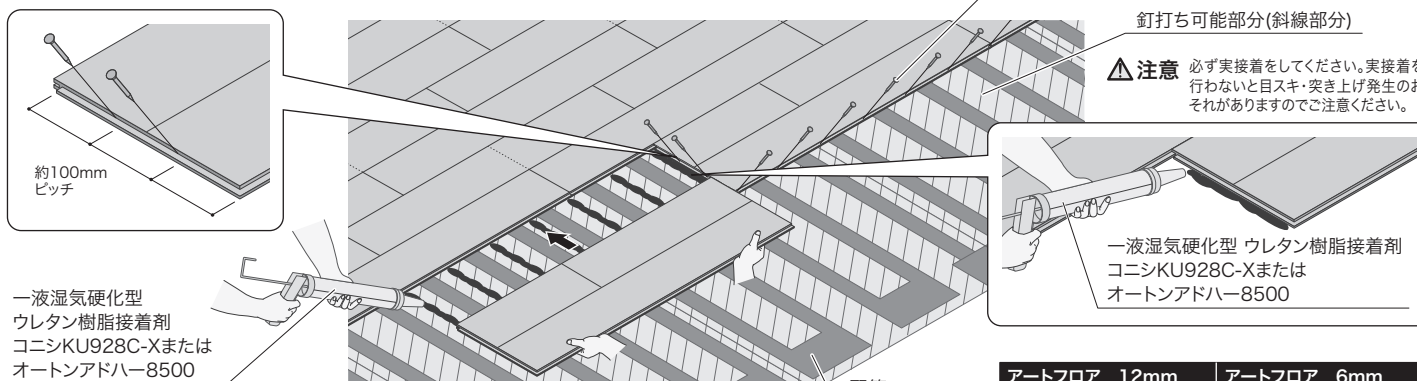
2 割り付け

- フロアは必ず木質温水パネルの配管方向と直交になるよう割り付けてください。
- 木質温水パネルと周辺合板の継ぎ目が、フロアの継ぎ目と100mm以上離れるように割り付けてください。
- 釘打ち可能部分上に必ず短辺実部がくるように割り付けてください。
- フロアは606mm、909mmずらし張り(柄によって異なる)のいずれかで割り付けてください。



3 施工

- 釘打ち可能部分に、一液湿気硬化型ウレタン樹脂接着剤(コニシKU928C-Xまたはオートンアドハー8500)を塗布してください。
- フロアを配置し、長辺オス実部に約303mm(300mm以下)間隔、短辺オス実部に約100mm間隔で釘打ち可能部分に釘(アートフロア/12mm:フロアネイル、アートフロア/6mm:フィニッシュネイル)を打ってください。(打ち込み角度 アートフロア/12mm:50~60°、アートフロア/6mm:45°)
- 2枚目以降は、配置がすんだフロアの短辺オス実下部に必ず一液湿気硬化型ウレタン樹脂接着剤(コニシKU928C-X・オートンアドハー8500)を塗布してから、新しいフロアを配置してください。
- 接着剤塗布直後からフロアを張り始め、夏季は20分以内、冬季は60分以内で張り終えてください。



- 釘打ち可能部分以外には絶対に釘を打たないでください。
- フロアの裏面及び木質温水パネル全面には接着剤を塗布しないでください。
- 接着剤がフロアの表面に付着した場合は速やかに乾いた布で拭き取ってください。硬化すると取れなくなります。

アートフロア 12mm	アートフロア 6mm
●釘…フロアネイル(スクリュー釘38mm以上)	●釘…フィニッシュネイル(頭幅1.9mm/頭厚1.3mm/長さ25mm以上)

4 養生

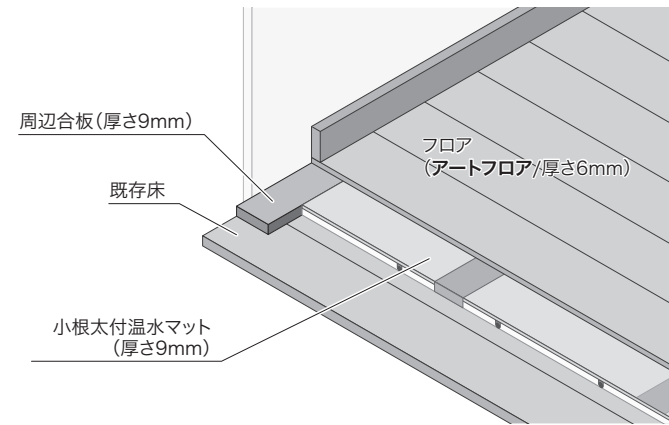
- 施工後は、床をきれいに清掃し、養生シートを養生テープで固定してください。養生シートの上から更に2.3mm以上の合板もしくはMDF等で固定することをお勧めします。
- 養生の際は必ず「木質床材用養生テープ」をご使用ください。(推奨品: (株)寺岡製作所 P-カットテープ 415白)

5 運転

- 接着剤が完全硬化し、接着強度がでるまで5日以上(室温20℃の場合)必要です。ただし、軽歩行は24時間(室温20℃の場合)あれば可能です。また放熱板への通湯は、48時間経過してから行ってください。

③小根太付温水マット(9mm)の場合

【アートフロア/6mm】 既存床の上に敷設するタイプ



アートフロア 6mm製品	●アートフロアLIP6 オリジナル
--------------	-------------------

⚠ 施工上の注意等

- 清掃をきちんとしてください。不具合の原因になるおそれがありますので、小根太付温水マットの表面を雑巾で拭いてください。
- 小根太付温水マットの施工要領書に基づく施工が正確に出来ているか、床暖房システムが正常に動作するかを確認してください。
- 床暖房を敷設する際は、あらかじめどの方向にフロアを設置するか確認の上、小根太付温水マットの敷設する向きを決めてください。
- 室温5℃以上で作業をしてください。現場の環境が床材施工に不適な場合は作業を行わないでください。

⚠ 施工後の注意等

- 掃除機などでゴミ、ホコリを充分に取り除いてください。
- 特に汚れがひどい場合は堅く絞った雑巾で拭き取ってください。
- 本製品は表面に十分な耐久性・意匠性をもたせたノンワックスタイプです。ワックスの使用はお控えください。もし何らかの理由でワックスがけを行う場合は同梱の「取扱説明書」をお読みください。
- 特に水濡れしやすい場所に施工する場合、必ず目地コーキングを行ってください。目地コーキングを行わないと水の滲入により床鳴り、突き上げ、スキ、シワなどの原因となります。

1 下地の調整

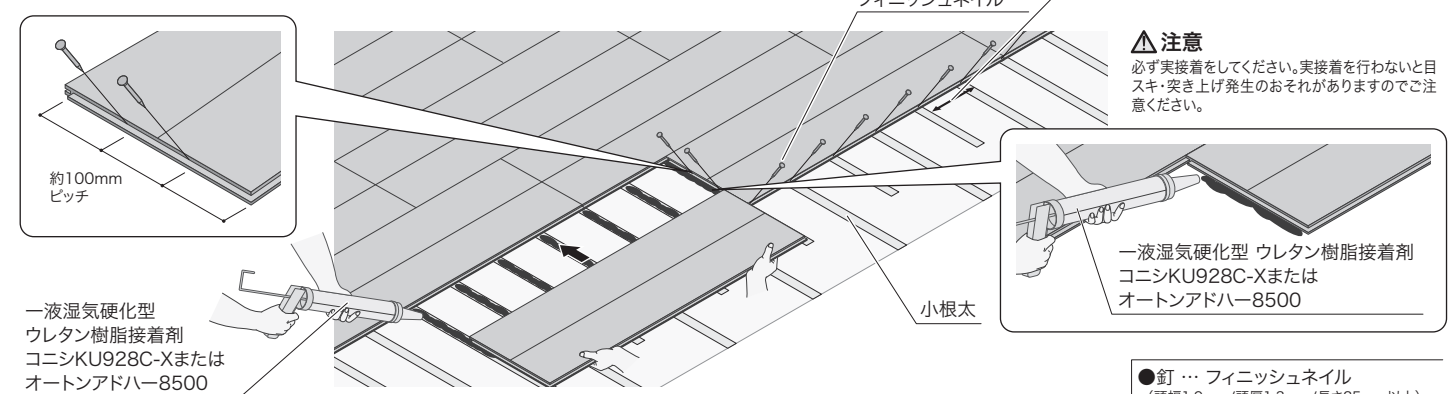
- 小根太付温水マットの施工はメーカーの説明書及びマニュアルに従って施工を行ってください。
- 小根太付温水マット施工後、異常なたわみや床鳴りがないことを確認してください。
- 周辺合板が濡れていないことを確認してください。含水率は13%以下としてください。(調べる場合は、電気抵抗式木材水分計で測定してください。)
- 小根太付温水マットと周辺合板(9mm、JASタイプI・F☆☆☆☆タイプ)とは段差のないよう仕上げてください。

2 割り付け (詳細図は表面①-2を参照)

- フロアは必ず小根太付温水マットの小根太と直交になるよう割り付けてください。
- 小根太付温水マットと周辺合板の継ぎ目がフロアの継ぎ目と100mm以上離れるように割り付けてください。
- 小根太のセンターに必ず短辺実部がくるように割り付けてください。
- フロアは909mmずらし張りで割り付けてください。

3 施工

- 小根太部分と小根太延長部分に、一液湿気硬化型ウレタン樹脂接着剤(コニシKU928C-X・オートンアドハー8500)を塗布してください。
- フロアを配置し、長辺オス実部に約303mm(300mm以下)間隔、短辺オス実部に約100mm間隔で小根太部分に釘(フィニッシュネイル/頭幅1.9mm/頭厚1.3mm/長さ25mm以上)を打ってください。(打ち込み角度45°)
- 2枚目以降は、配置がすんだフロアの短辺オス実下部に必ず一液湿気硬化型ウレタン樹脂接着剤(コニシKU928C-X・オートンアドハー8500)を塗布してから、新しいフロアを配置してください。
- 接着剤塗布直後からフロアを張り始め、夏季は20分以内、冬季は60分以内で張り終えてください。

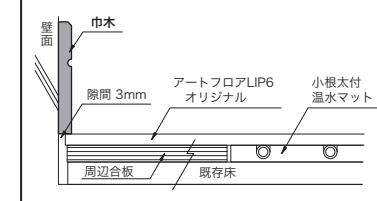


- 釘打ち可能部分(小根太)以外には絶対に釘を打たないでください。
- 小根太付温水マット上のフロア施工にフロアステープルは使用しないでください。樹脂パイプを貫通してしまった場合、釘打ち検知器による検知ができない可能性があります。
- フロアの裏面及び小根太付温水マット全面には接着剤を塗布しないでください。
- 接着剤がフロアの表面に付着した場合は速やかに乾いた布で拭き取ってください。硬化すると取れなくなります。

中木をご使用の場合

- フロアを施工後、中木を取り付けてください。

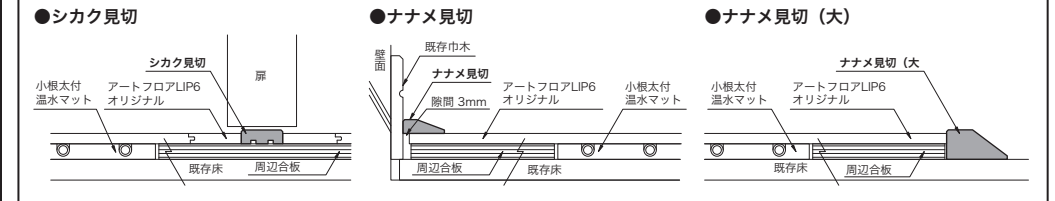
中木納まり図



見切り材をご使用の場合

- フロアを施工後、指定の一液湿気硬化型ウレタン樹脂接着剤(コニシKU928C-X・オートンアドハー8500)とフィニッシュネイルまたは隠し釘で施工してください。

見切り材納まり図



4 養生

- 施工後は、床をきれいに清掃し、養生シートを養生テープで固定してください。養生シートの上から更に2.3mm以上の合板もしくはMDF等で固定することをお勧めします。
- 養生の際は必ず「木質床材用養生テープ」をご使用ください。(推奨品: (株)寺岡製作所 P-カットテープ 415白)

5 運転

- 接着剤が完全硬化し、接着強度がでるまで5日以上(室温20℃の場合)必要です。ただし、軽歩行は24時間(室温20℃の場合)あれば可能です。また放熱板への通湯は、48時間経過してから行ってください。